

令和2年度 県立水戸特別支援学校(特別支援学校)自己評価表 (様式2)

※評価基準 A:十分達成できている B:達成できている C:概ね達成できている D:不十分である E:できていない

目指す 学校像	〇児童生徒一人一人の可能性を高め、個性と人権を大切にする学校 〇児童生徒が思いやりや豊かな感性・情操を育むことのできる学校 〇児童生徒が主体的・協働的に授業に取り組み、自己実現できる学校		〇児童生徒と教職員の笑顔があふれる安全で安心な学校 〇地域、保護者、関係機関等と教職員が連携・協働できる魅力 〇児童生徒も教職員もみんながほめられる、認められる、活躍	
	昨年度の成果と課題	重点項目	重点目標	達成状況
・ 肢体不自由特別支援学校で配慮すべき緊急避難体制として、エレベーターが稼働しない場合の避難体験や、医療的ケア児に対応する避難物品の持ち出し体験等を行うことができた。また、緊急マニュアルを見直し、緊急時対応医療訓練を繰り返し行うことで、落ち着いた搬送体制が構築されてきた。そして、年2回の児童生徒の学校生活アンケートの集計やヒヤリハット事例の蓄積、日頃の健康観察・安全点検等により、体調の変化への気づきや事故の未然防止に努めることができた。また効果的な改修方法による施設の老朽化の対応を行うこともできた。 ○これからも、環境、指導体制両面の充実を図るために、関係諸機関、近隣の医療機関、学校医や巡回指導医等との連携をさらに深めていく必要がある。 ・ 学習指導要領改訂に伴う教育課程、年間指導計画・個別の指導計画、評価基準の見直しを行った。様式や記入の仕方に戸惑いを感じながらも、作業を進めることができた。 また、教員一人一人が授業公開をしながら一研究課題に取り組むことで、焦点をしばって児童生徒と向き合うことができ、児童生徒の成長や授業の成果を実感することができた。 ○今後はOJT機能を使った指導力の向上、様々な研修を取り入れながら効果的なICTを活用した授業の充実を図り、健康推進のためにさらに外部専門家との連携を図っていく必要がある。 ・ 個別の教育支援計画や移行支援計画を活用して労働・福祉・支援機関との連携のもと、進路指導の充実を図ることができた。また、中学部の職場体験や近隣の特別支援学校との福祉施設等合同説明会を実施するなどして、生徒・保護者への理解啓発を図ることができた。 ○「将来の夢や願い」をかなえるために、今後さらに卒業後の移行支援の充実や同窓会との連携、キャリア教育の意識を高めるための	1 児童生徒、保護者や地域に信頼される安全・安心な学校づくりの推進	①一人一人の障害の状態等に応じた安全な教育環境づくりの強化と緊急時医療訓練の実施によるリスクマネジメントの強化 ②医療的ケア対象児童生徒数への安全な対応(看護職員・保護者・医療等との連携)と健康の推進 ③防災教育の充実に努め、児童生徒のセルフケア能力の向上 ④障害者の権利や合理的配慮を踏まえた教育活動の実践と普及・推進 ⑤コンプライアンス推進委員会や人権啓発推進委員会の活性化を図り、教職員の非違行為の絶無と、いじめ、体罰、虐待のない学校づくりを追及	A	A
			A	
			B	
			B	
			A	
	2 学校の教育力と児童生徒の学力の向上、健康の推進	⑥新学習指導要領に基づいた質の高い学びを実現するための教職員の課題を明確にした研修充実とOJTによる授業研究の推進 ⑦外部専門家等を活用した自立活動等の授業の改善による教員の専門性の向上 ⑧社会に開かれた教育課程、年間計画、個別の指導計画等と結びつきのある授業実践 ⑨ICTを活用した授業の充実と効果的な活用による学力の向上 ⑩保護者、関係機関、分掌部と連携及び授業との関連による健康の推進	A	B
			B	
			B	
			A	
	3 児童生徒一人一人の将来の夢や願いを実現させる進路指導の充実	⑪卒業後の生活を見通した児童生徒一人一人の「自立と社会参加」につながる指導内容の工夫と学部間及び寄宿舍指導の系統性を踏まえたキャリア教育の推進と充実 ⑫関係機関との連携・強化を深め、個別の教育支援計画を効果的に活用し、一人一人に応じた進路指導や生徒指導の実施 ⑬児童生徒の主体的な進路選択につなげるための、中学部からの職場体験、企業や福祉施設の見学、高等部における現場実習などの系統的・計画的な実施	A	B
			B	
			B	

情報提供の工夫等を行っていきたい。 ・各市町村への調査により、特に肢体不自由のある幼児の巡回相談件数が増え、少しずつ早期からの相談の必要性が浸透しつつある。また、発達障害への支援要請もあり、他の障害種担当者との連携も重要になってきている。 ・学校間交流や地域交流は定着し、様々な活動内容の工夫が見られ、交流の良さを実感することができた。 ○「自立と社会参加」のためには、地域や児童生徒同士のかかわりはどうあるべきか、もう一度 目的をしっかりとって取り組んでいきたい。 ・残念ながら障害者スポーツ大会(茨城大会)は中止となったが、会場に近い学校として、そのPR活動や開・閉会式の役員として多くの児童生徒がかかわることができ、貴重な体験や交流をすることができた。また、高文連特別支援学校部会の事務局校として、各学校の取組や特色を積極的に紹介することができた。これらはホームページや新聞記事などで大きく取り上げた。 ○障害者スポーツや文化をもっとPRできるようにしていきたい。	4 地域の特別支援教育のセンター的機能の充実と交流及び共同学習の推進	⑭肢体不自由や発達障害に関する幼児教育施設、小・中・高等学校等への特別支援教育巡回相談の推進と専門家の活用の積極的な取組	B	B
		⑮個別の教育支援計画を活用した「キッズ・リハ手帳」の利用促進と関係機関と連携した就学時や転入学時の支援連携や校内支援会議の充実	A	
		⑯地域交流や学校間交流、居住地校交流、スポーツ交流の計画的な実施による、社会性や豊かな人間性の向上	C	
		⑰地域理解・地域貢献活動による地域とともに歩む学校づくりの推進	C	
	5 心と体を育むスポーツ・文化活動の推進	⑱児童生徒の作品などの校内展示や、校内作品展を開催する際の「見せる工夫」による児童生徒の創作意欲の喚起	A	B
		⑲茨城県高等学校文化連盟特別支援学校部会の活動への計画的な参加と高等学校との交流	B	
		⑳実態に応じた様々な障害者スポーツを取り入れた体育や部活動指導の充実	B	
		㉑標語、詩歌、書道、写真、ポスターや絵画展、芸術祭や音楽祭等の文化・芸術的活動への積極的な参加と情操教育の推進	B	

評価項目		具体的目標	具体的方策	重点目標との関連	評価	課題及び次年度(学期)への改善策
教務係		○学校全体の教育目標を達成するために各部・校務分掌等と連携し、課題の解決を図る。	○学校全体の視点から各部・校務分掌等と相互に情報共有をしながら課題について検討し、解決を図る。	⑥⑦ ⑧⑨	B	・コロナ禍で年間教育活動等予定が見通しがもちにくい状況のため、行事の精選、ダブルループの視点で行事等の見直しを進めていく。 ・中高の委員会や部活動のあり方について、週時程に位置付けられるように開始時期を明確にし、計画的に検討を進めていく。 ・教育課程の課題について、1学期を目途に各部・課程等で共通理解を図り、11月末の教育糧編成表の提出までに教育計画係、課程会等と連携し、計画的に検討を進める。 ・引き続きオンライン職員会議や資料のペーパーレス化を進めることでデータによる効率的な情報共有に努める。
			○各種事業が円滑に進められるよう、ICTを活用した会議・連絡会等のもち方を工夫し、効率的に情報共有ができるようにする。	⑥⑨		
		○新学習指導要領をふまえ、本校児童生徒の実態に即した教育課程について検討する。	○学校全体の視点から教育課程について検討し、系統的な教育課程を編成する。	⑥⑦ ⑧⑨	B	
			○各部相互に連携し計画的に教育課程検討委員会を設定し、丁寧に見直しを図る。	⑥⑦ ⑧⑨		
表簿記録・庶務係		○事務部と連携を図り、教材・備品の計画的な購入を行う。	○備品購入の際の物品購入伺いの提出、購入を希望する係と事務部の連絡調整を行う。	④	D	・物品購入については、各係や学部等から購入伺いが出されるため、係として連絡調整することはなかった。 ・備品管理では、各教室で使用する加湿器の配付(4月)、回収(3月)を行った。3月は、水あか等の掃除をするためにクエン酸を配付した。故障による修理や新規購入の必要性が出てくると思われる。 ・指導要録について、小学部が新書式へ移行、中学部が次年度から移行になるため、昨
		○備品の適切な管理を行う。	○不要な備品を事務室と連携し、移動・処分する。 ○加湿器の配付と回収を行う。	④	C	
				④		
		○公定帳簿や会計簿、各種ファイルを管理し、正確な記入を促す	○保管期限を過ぎた公定帳簿は、管理職・教務主任と確認をしながら適切に処理する。	④	B	
○記入担当者だけでなく全職員での共通理解を図る。	④					

	○行事記録の整理及び管理を行う。	○記録ファイルの配付を行う。	④	D	年度からの継続で、記入見本の作成を行った。次年度は高等部の作成に着手予定。 ・出席簿は、新型コロナウイルス感染症による休校や分散登校に応じた記入見本をわかりやすく提示した。 ・行事記録については、各学部や各係で行っており、表簿係としての動きはなかった。
教科書・図書係	○教育目標、児童生徒の実態を踏まえた教科用図書の選定に資するよう努める。	○教科書選定委員会、教科書選定協議会等を実施し、選定方針を定め審議する。	⑧	A	教科用図書の選定において、校内展示会の意見を基に、部内での系統性を確認して行うことができた。 教科用図書関係書類の作成については、係内や部主事とダブルチェックを行ったが、提出書類に不備が残っていたため、提出前に最終チェックができると良かった。 教科用図書に関する事務処理について、システムのマニュアルを作成したことで、処理がしやすくなった。ただし、細かな点については何年か仕事に関わらないと覚えることが難しいと思われる。 図書については、1学期から夏休みにかけて、係が大幅な廃棄を行った。司書室も大規模な整理を行い、入室・利用しやすくした。司書室を閉架書庫としても利用しながら、図書室へ出す本を定期的に入れ替えられると良い。廃棄した本の数が多かったため、廃棄手続きのデータ処理が終了しておらず、次年度に引き継ぐ必要がある。図書委員会では読み聞かせの放送やおすすめ図書の紹介と掲示を行い、図書に親しみをもってもらう機会を設けることができた。 校務分掌係会の際に、他の係が図書室を使用していたり、他の会議が入っていたりして図書室を使用できず、図書の整理が思うようにできなかった。係会の際には教科書・図書係に使用させてほしい。
		○各部の系統性を確認し、幅広い意見を得るために校内教科書展示会を実施する。	⑧		
	○スムーズな教科用図書関係書類の作成に努める。	○提出期限、提出物の内容については複数の職員で確認する。	⑧	B	
		○提出にあたっては、使用する教科書の出版社、納入数に間違いがないように部主事、教務係との連携を図る。	⑧		
		○重複児童・生徒の教科用図書の入学してからの調査を行い、重複配布を防ぐ。	⑧		
	○児童生徒が利用しやすいように図書室の整理整頓を行う。	○貸し出しカードの確認や教員への聞き取りから図書の需要を把握し、図書の廃棄、精選を行うことで、図書室を利用しやすくする。	⑧	A	

		○「みんなにすすめたい1冊の本推進事業」及び校内表彰を実施し、読書活動の推進を図る。	○各部会や図書便りを通じて活動の周知を図る。 ○読書数に応じて年に1度表彰を行い、読書活動を推進する。	②①			
地理 域 解 貢 推 進 係 ・		○児童生徒の教育活動の発表の場を充実させることで、児童生徒の自己有用感を高めるとともに、特別支援教育の理解啓発の推進を図る。	○校内での「水特ギャラリー」、校外での「チャレンジギャラリー」「チャレンジスポット」を計画・実施し、定期的に芸術作品の掲示や各授業での活動を紹介する。	①⑧②①	D	D	・校内の「水特ギャラリー」は行うことができた。来年度以降も継続したい。 ・校外での活動は、新型コロナの影響で中止になってしまい活動することができなかった。 ・学校公開については、ZOOMでの公開を予定していたが、参加希望がなかったため実施しなかった。学校公開の期間に合わせてくれよん工房に高等部の作業製品を展示したので来年度は販売などにもつなげられると良い。
			○「学校公開」「タウンモビリティin水戸フェス」の計画・実施をとおして、児童生徒の活躍の場を設けるとともに、職員のボランティア活動を推進し、地域とともに歩む学校づくりに取り組む。	①⑦①⑧ ②②②①			
共 交 流 学 及 習 び 係		○交流及び共同学習をとおして、本校の教育と児童生徒に対する理解啓発の推進を図るとともに、双方にとって充実した活動となるように努める。	○「学校間交流」「居住地校交流」「地域の方との交流」それぞれのねらいと手だてを明確にし、共通理解を図りながら実施する。 ○お互いの相互理解が深まるよう、交流相手との十分な連携を図りながら進める。	①⑥①⑦	D	D	・新型コロナウイルス感染拡大防止のため、学校間交流と地域交流は中止とした。居住地校交流ほ、希望する3名の児童が手紙のやりとりで交流を行った。次年度についても、直接交流は難しいと思われるため、オンラインや手紙、動画の交換など間接的な交流を行っていきたい。
校 内 支 援 係		○児童生徒一人一人のニーズに応じた自立に向けた支援を、関係機関と連携してスムーズに行う。	○「キッズリハ手帳」の利用促進に関する説明や案内を保護者や教師に行い、関係機関との連携や個別面談などで積極的に利用できるように促していく。	①⑤	B	B A	・新入学生のキッズリハ手帳の作成率は100%であった。面談時のキッズリハ手帳の活用については「必見お知らせ」を使って促した。個別にキッズリハ手帳の整理の仕方活用についての相談に対応した。今後も活用についての連絡を必要時期に行ったり、相談に対応していくことを継続する。 ・就学時・入学時移行支援連絡会についてはオンラインや来校、本校職員による訪問と参加方法について希望を取り情報共有を行えるよう計画した。現在日程調整等の準備をしている。現時点では欠席する団体はなく連絡会に参加する予定。今後も実施日の希望や実施形態について柔軟に対応できるようにしたい。 ・ケース会を4件実施した。それぞれのケースに速やかに関係職員の協力を得て対応することができた。今後も関係職員と連携・調整し速やかな対応をしていく。
			○就学時・入学時移行支援連絡会の企画・運営し、就学時・入学時のスムーズな移行を図る。	①⑤	B		
			○児童生徒の様々なケースに対応し、各関係機関との情報共有・連携に基づいた適切な支援を進める。	①⑤	A		
地 域 相 諮			○肢体不自由や発達障害等のある子どもが在籍する幼児教育施設、小・中学校・高等学校等への巡回相談を実施し、必要に応じて専門家への派遣要請を行う。	①④			・肢体不自由のある幼児児童生徒の支援希望調査は、巡回相談の依頼につながっている。継続して調査を実施し、適切な支援に努める。次年度も外部相談支援マニュアルに沿って対応をする。 ・関係機関向け学校見学会は中止し、代わりに学校紹介動画を作成し、ホームページで公開
			○関係機関向け学校見学会を通して、就学や入学に関わる方への特別支援教育や本校の教育活動、肢体不自由についての理解を促す。	①④①⑤			

域 支 援 部	支 援 セ ン タ ー 係	○地域の特別支援教育のセンター的機能の充実を図る。	○肢体不自由のある子どもの在籍調査の実施を通して、本校、通学区域内の幼児教育施設、小・中学校、高等学校等在籍の幼児児童生徒の肢体不自由に関するニーズを把握し、適切な支援につなげる。	⑭⑮	B	B	本校の教育活動の理解を深めてもらうことができ、来校相談時の相談時間の短縮にもつながった。感染症対策のため、次年度もホームページでのお知らせやオンラインでの相談にも応じられるようにしていく。 ・地域支援部だよりやセンター的機能、教材教具、福祉に関する情報をホームページに掲載し、特別支援教育や肢体不自由についての情報を発信した。今後も継続して情報発信に努める。
学 習 支 援 部	教 育 計 画 係	○個別の教育支援計画、個別の指導計画、個別の移行支援計画、および年間指導計画にかかわる手続きを検討し、共通理解事項について理解啓発を図る。	○個別の教育支援計画、個別の指導計画、個別の移行支援計画、年間指導計画のスケジュール作成と周知、臨時休業に伴う変更迅速かつ柔軟に対応できるようにする。 ○個別の教育支援計画、個別の指導計画、個別の移行支援計画の作成を通じた指導の目標や手立てなどについて共通理解を図るための個別面談の周知を行う。	⑫	C		・指導目標や指導のための手立ての共通理解を図るための面談のためにはさらに内容の精選が必要であった。 ・個別の支援計画等に係る年間のスケジュールを自立活動部や関係する部と調整や相談をしながら作成をしている。 ・新学習指導要領に合わせた3観点を意識し、各教科の目標を設定できるよう研修会を行う必要があった。また、プロセスシートやキャリアパスポートなど年度途中から実施されるものがあり、教職員の研修をしっかりと行う必要性があった。 ・学部ごとの課程会は、授業充実のために定期的、計画的に行うことができた。係会で話し合われたことや変更になった点は、学年代表を含めてメールを送り、教職員への周知を図った
		○課程会の企画運営と調整を行う。	○各部の教育課程ごとに課程会を行い、実態や能力に応じた指導の共通理解をし、授業の充実を図る。	⑦⑧	B	B	
	ス ポ ー ツ 推 進 係	○障害者スポーツを通して、障害者に対する理解啓発に努める。	○学校間交流等を通して、障害者スポーツを多くの方に知ってもらい、障害者の社会参加に対する理解を深められるようにする。	⑯	B	B	・コロナの影響で多くの大会等が中止となったが、ボッチャ甲子園オンラインに参加するなど新しいことに挑戦することができた。また、運動部活動では、中高が分かれて密を避けながら、対策を講じた活動を行うことができた。
		○運動部の指導を充実させ、各種スポーツ大会へ積極的に参加する。	○部活動(運動部)では個々の実態に応じた種目の選定を行い、競技力の向上を図りながら、各種スポーツ大会へ参加し活躍できるようにする。	⑳	A		

研究・研修部	推 進 化 係 活 動	○部活動の指導を充実させ、可能な範囲での音楽会や美術展などへ積極的に参加する。	○趣味の拡大や技能の向上を目指したり、可能な範囲で音楽会や美術展への参加をとおして、他校との交流を図ったり、達成感を味わったりすることができるようにする。	⑬⑭	B	B	・高文連特支学校部会は委員会を全てオンラインで実施するなど新しいスタイルに挑戦した。遠隔操作ロボット「OriHime」を活用した部門大会は中止としたが、代替案として動画を作成し、高文連HPIにアップした。
		○校内外での文化・芸術的活動の充実を図る。	○「アートフルステージ」の開催や「ナイスハートフェスティバル」の企画運営に携わることで、児童生徒に文化・芸術的活動に触れる機会を設ける。	⑭	B		
	研究係	○児童生徒が気付きを生み、学びを深めることができる授業実践のための、教師の気付きや指導方法について互いに考えを共有し、活発な情報交換ができる研修を行い、指導力の向上を図る。	○全体研修会を設定し、授業づくりについての知見を深めることができるようにする。 ○グループ研修会を設定し、授業改善につながる協議や共有ができるようにする。 ○他の校務分掌や職員と連携し、グループ研修以外自主研修を行い、職員への気付きを促す機会をもつことができるようにする。	⑥⑦⑩	B	B	・グループでは、付箋紙・模造紙を使い、互いのエピソードから学ぶ方法に挑戦。教員の参加率は、平均70%。教員の気付きへの意識は84%に上った反面、教師の内面に迫るテーマであることから、教師自身の変容までの成果は見えにくかった。今後、子どもへの授業に繋げていくことが課題。
		○研究係と連携し、教師の指導力と肢体不自由教育に関する専門性の向上を図る。	○研究係と連携して研修会、講演会、学習指導研修会等の企画、運営を行う。	⑥⑦⑧⑩	B		
	研修係	○研修に関する情報提供を行い、職員研修の円滑な進行と充実を図る。	○情報提供を行い、事務局との連絡窓口となり各種手続きを行う。(特別支援学校教育研究会、高等学校教育研修会、他校で開催される研修会)	⑥⑦⑧⑩	C	B	・特教研が中止となったため、会員募集や研修案内などの案内の活動はなく、一般研修の案内を中心であった。 ・研修センターの「校内研修支援」を活用し、各教科等を合わせた指導(特に生活単元学習)についての研修会を企画した。学習指導要領に基づく生活単元学習の根拠や授業づくりなどの講義を受け、理解度が深まったとアンケートに回答した教師は71%だった。今後も、教師の困り感や学びたい研修を企画していくことが課題。
		○若手教員研修、中堅教諭等資質向上研修対象者が円滑に研修を進められるように情報の周知徹底、相談体制の構築を図る。	○教育情報ネットワークの電子会議室に若手教員研修、中堅教諭等資質向上研修対象者限定の会議室を設けることで、常時、情報の共有や交換、質問と応答ができるようにする。	⑥	A		
	初任者、2・3年次研修係	○OJTの考えに基づいた校内研修を計画・実施する。	○年度当初に年間計画を作成し見通しをもって取り組めるようにする。 ○それぞれの研修内容のベテラン教諭を指導者として協力を仰ぎ、研修を計画実施する。	⑥	A	A	・電子会議室で年間総数1150投稿の情報交換を行い、年次研修対象者や係との情報の共有が滞りなくできた。気軽にやりとりができ、有効な方法であった。 ・例年、年度末に行っていた各年次研のポスター発表を取りやめ、研修センターでの発表に向けた、各々のプレ発表の動画を校内共有フォルダにあげ公開する方法で実施。 ・県教育研修センターから出された資料を基に計画的にスケジュールを決め、滞りなく実施することができた。 ・授業研究を17回実施、授業者に対して延べ301人が1119枠のコメントを投稿した。動画での公開、ネットワーク上でのコメント、周知方法などのシステム作りが適切であった。
		○若手教員研修や中堅教諭等向上研修対象者の授業実践に対して、多くの校内職員が参観したり、授業コメントをしたりすることができるような体制を構築する。	○授業をいつでも参観できるように、授業の様子を撮影し、ネットワーク上で公開する。 ○授業を視聴した職員が、ネットワーク上で授業に対するコメントができるようにする。 ○授業実践時は、朝会や必見フォルダ等で周知する。	⑥	A		

自立活動部	自立活動係	○医療機関（外部専門家の活用等）との連携を通して個に応じた指導の充実を図る。	○相談票の様式を改訂することで、相談実施前に児童生徒の指導に関わる課題意識の明確化を図る。 ○児童生徒1名に係る外部専門家への相談を複数回設定することで、児童生徒の変容を把握する。 ○外部専門家へ相談された内容を「自立活動だより」等に掲載し、共有する。	⑥⑦ ⑧	B	C	・セラピスト学校訪問では、コロナ感染予防対策をした上で、休業中を除いて、予定通り実施できた。相談票では読み取れない内容については、担任からの聞き取りや動画の提供を受けることによって、深めることができた。開始前に、セラピストに児童生徒の情報を伝えておくことで、時間を有効に使うことができた。複数回実施することで、担任・セラピスト・係で変容を共有することもできた。教員の専門性向上を図るには、係の中でセラピストと担任の調整役を回していくことや、学んだことをこまめに発信していく必要がある。 ・車いす等の安全点検票を作成したが、十分に活用できていない。本年度実施できなかった新任者研修や摂食指導に係る研修会については、次年度オンラインを活用して実施したいと考える。
		○学校生活を安全に送るための基本事項についての共通理解を図る。	○学校保管の車いす、ウォーカーの定期点検を実施する（安全点検票の作成、定期点検）。 ○介助、車いすの扱い等についての基本事項の確認をする（新任者研修、文書配付等）。 ○摂食指導に係る研修会を実施する（全体、ケース会）。	①	C		
	教材・教具係	○夏季休業中に外部から講師（山ねこ工作室の山本さん）を招き、研修会と製作会を実施する。	⑩	B	・教材制作会ではなく、視線入力装置活用ケース会のアドバイザーとして外部講師を招いた。機器の扱い等について情報を得ることができた。一方で、機器を使用する際には姿勢づくりが大切であることを指摘され、姿勢の重要性を再認識した。 ・教員の自作教材のデータ公開を計画し、各学年・課程ごとに作成を依頼したが、協力者が少なかった。また、データの保管場所が分かりにくく、効果的な活用までには至っていない。指導につながる教材情報の共有や貸借ができるような工夫が必要である。		
		○自作教材教具の紹介、校内展示、製作会を通じて教材教具作りのアイデアや工夫を知り、教材教具を生かした授業実践が積極的に行われるようにする。	○使用している教材教具、過去に作った教材等、自作教材を夏季休業中に校内展示し、手に触れて使ってみたり、説明を聞いたりできる機会を作る。	⑩	D		

情報教育部	情報指導係	○会議ソフトを使ったオンライン授業の充実	○オンライン授業で会議ソフトの導入と研修を行う。	⑨	A	A	・対策チームと連携し、4月3週にはオンライン授業を開始、5月には全体で行うことができた。 ・ネットとメールの役割分担を明確にし、カバーできない点をメールシステムで補填することができた。
		○緊急メールシステムを活用した情報の収集や管理、発信	○各家庭への情報発信とともに、受信確認アンケートを使ったICT環境の確認を行う。	①	A		
	機器等管理係	○オンライン授業の環境整備	○情報配信をYouTubeとメースシステム、双方向性授業を会議ソフトとにわけ、利用する教員の環境の整備とサポートを行う。	⑨	A	A	・ネットを介した放送システムを充実させ、訪問教育や出張講演、会議等にもオンラインシステムを活用できた。 ・既存の編集ソフトの使用方法を教員・生徒に汎化し、動画編集の技術の底上げを継続している。 ・クラウドシステムを使ったデータ共有システムは完全に機能していて、在宅勤務に十分に使用できる状態である。
		○クラウドシステムを活用したデータ共有での在宅勤務支援	○Google drive file streamを全校に導入し、個人と個人間のデータのやり取りを簡易化することで業務が円滑におこなえるようにする。	⑨	B		
生徒指導部	生徒指導係	○児童生徒の心や思いに寄り添った具体的な指導、支援の充実を図る。	○学校生活に関するアンケートや面接を行い、児童生徒の問題点や悩みを把握し、各部、各校務分掌部と連携して問題の解決を図る。必要に応じて校内支援会議等を開催したり、外部専門機関との連携を行ったりする。	⑫	B	A	・学校生活アンケートを実施したが、重度重複の過程に対する質問事項は見直しが必要である。 ・人権啓発教育研修会として、茨城大学大学院金丸先生を招いて、「「不安をみつめなおして指導に活かす」との題名で講演会をもった。 ・茨城県水戸警察署生活安全課曾澤さんほか2名を招いて不審者対応避難訓練を実施した。
			○いじめや体罰に関するアンケートを行い、アンケート結果を考察し、必要に応じて人権啓発推進委員会で検討し外部専門家の意見を聞き、指導、支援に生かす。	⑤	A		
		○児童生徒の安心安全な学校生活を守る。	○不審者対応の避難訓練を行い、児童生徒の安全を守る。	①	A		
	スクールバス係	○スクールバス運行に関係する機関や職員との連携を強化し、緊急時対応等に迅速に対応する。	○緊急時対応マニュアルを基に、地震等の災害時、急病人発生時に対して安全な送迎ができるよう共通理解と訓練を行う。	③	B	A	・新型コロナウイルス感染対策による、分散登校や寄宿舎生の臨時乗車など、職員やバス乗務員と連携を図りながら対応できた。 ・保護者、乗務員、職員などから、運行や児童生徒に関する情報把握に努め、対応することができた。
		○子どもの安全を守るために、関係する方々との連携を図り、児童生徒の実態把握を適切に行う。	○係組織を活かし、日常的に保護者、乗務員、教職員などからの運行や児童生徒に関する情報把握に努め、安全安心な運行ができるよう対応する。	⑫	A		
	進路指導係	○関係機関との連携による個別の教育支援計画を活用した適切な進路指導の推進を図る。	○労働、福祉、支援機関など関係機関との連携を密にし、個別の教育支援計画や個別の移行支援計画を活用しながら市町村福祉課との地区別ケース会議(高3個別の福祉相談)、職業相談会(就労希望者)、進路先との卒業時移行支援会議(引き継ぎ等)の充実に努める。	⑫	B	B	・労働、福祉、支援機関等、関係機関との各種行事では、新型コロナウイルス感染症対策を十分にしながら、予定通り実施することができた。今回は時間や実施形態等を変えて実施したが、今後は、訪問が難しくなった場合を想定したオンライン等の実施方法や形態も考えていく必要がある。 ・小学部から高等部までの系統的な進路指導については、新型コロナウイルス感染症対策のため、実施形態や内容を変更して実施した。 ・保護者への積極的な進路情報の提供ができるよう、来年度はよりホームページやメール配信等を活用し、進路情報の発信を行っていきたい。
		○児童生徒の主体的な進路選択に向けた、小学部の高等部見学や中学部体験、中学部の職場を想定した体験的な学習、高等部の現場実習や企業及び福祉施設見学等の体験的な活動を系統的に実施し、その充実を図る。	○小学部から高等部までの系統的な進路指導を踏まえ、相互に連携しながら多様な実態やニーズに応じた職場体験や現場実習の充実に努める。また、本人や保護者との進路相談や進路希望調査、進路学習等を通して、希望や適性を把握し、児童生徒一人一人の主体的な進路選択に向けた進路指導の充実に努める。	⑬	B		

キャリア教育推進部	卒業生支援係	○卒業生の現状を把握し、支援が必要な卒業生に対して関係機関と連携して支援を行う。 ○在学中より進路先、家庭、学校、関係機関が連携し、卒業後の進路先及び地域への円滑な移行を図るとともに計画的な支援により、安定した社会生活が送れるようにする。 ○同窓会の適切な運営ための支援を行う。	○卒業後3年目までの卒業生を対象に移行支援を行う。卒業後1年目の卒業生に対しては、年間2回家庭への電話連絡と1回の進路先訪問を行う。卒業後2年目の卒業生に対しては年間1回、家庭への電話連絡を行う。卒業後3年目の卒業生に対しては必要に応じて電話相談や訪問支援等を行う。 ○関係機関からの支援依頼に対しては、依頼内容を確認し、関係機関と連携して支援にあたるようにする。 ○卒業時に進路先で移行支援会議を実施し、個別の教育支援計画と個別の移行支援計画をもとに進路先と関係機関に保護者の了承の上、情報を提供し、円滑に移行できるようにする。 ○卒業生相互の定期的な交流の機会をもてるように役員会運営のサポートや総会の運営・水陽祭への参加を行う。	⑫	B	B	・卒業生支援として卒業後1年目に電話連絡と訪問を合計3回、2年目に電話連絡を1回行った。1年目の卒業生に関しては、新型コロナウイルスの影響で訪問することはできなかったが電話連絡で対応した。 ・卒業時移行支援会議については、担任が進路先で必要な情報を提供することができた。 ・本年度は、水陽祭にて同窓会を開催する予定であったが新型コロナウイルスの影響で実施することができなかった。委員会についても同様に実施することができなかった。今後は、次年度どのような方向で進めていくか検討していきたい。
		○キャリア教育全体計画をもとに、本校の教育活動をキャリア教育の視点で「意味付け・価値付け・方向付け」し、学校全体としてキャリア教育への意識を高める。	○昨年度のキャリア教育全体計画をもとに、今年度の全体計画を作成することで係で共通理解する。また、学部での教育活動をキャリア教育の視点で見直し、活動ごとの中心的なねらいや内容などを挙げ、一覧にまとめたものを配付する。	⑪	B	B	・本年度は、キャリアパスポートを本校で導入した年となった。様式は各学部、各課程で変え、実態に応じたものになるように係で話し合い作成した。準ずる教育の課程と重複教育の課程の児童生徒は自身で記入するようにし、重度重複教育の課程の児童生徒は、担任が実態を見ながら記入した。保護者からのメッセージのもらい方や引き継ぎ方、様式等については今後検討が必要である。
	キャリア教育係	○「キャリア教育で育てたい力一覧表」をもとに授業実践を行う。	○年間指導計画や指導略案などに「キャリア教育で育てたい力一覧表」の内容を記載し、実践を行うとともに、内容の評価や改善を行い、表の見直しに生かす。	⑪	B	B	

保健指導部	保健指導係	○児童生徒が健康で安全な生活が送れるよう健康状態を的確に把握し、疾病や感染症の早期発見・予防に努める。	○定期健康診断の実施や校内の環境衛生管理に努める。	②	A	B	B	・新型コロナウイルス感染症対策のため、定期検診の時期が2学期にずれたが、学校医と調整し実施することができた。 ・例年通り、緊急医療訓練を実施した。見学は密を回避するためオンラインで実施した。反省会であげられた内容や、学年ごとの反省に関しても回答し供覧して周知に努めた。 ・救急救命講習会は新型コロナウイルス感染症予防のため、講師から連絡があり中止になった。そのため、参加者には映像の視聴を勧めた。来年度は、茨城赤十字社に講師を変更し、オンラインで開催予定。 ・生徒全員が集まる機会をもつことは難しかったが、放送で目標を呼びかけたり、廊下や掲示板に掲示したりして啓発に努めた。第2回の学校保健委員会で本年度の活動を発表した。
		○病気やケガなどの緊急時に迅速に対応できるように講習会やシミュレーション訓練等を行う。	○前期と後期年2回緊急時を想定した医療訓練を行う。	③	B			
		○保健委員会活動を通して、児童生徒が健康や清潔な環境づくりについて興味や関心をもつことができるようにする。	○保健委員会の年間活動計画を作成する。また、放送や集会で呼びかける。	②	B			
	医療的ケア係	○医師、看護職員、保護者、担任および関係職員、養護教諭と医療的ケア（高度医療的ケアを含む）についての情報を共有し、安全・安心な医療的ケアを実施する。	○看護職員、養護教諭、関係職員で定期的に医療的ケア安全委員会（月1回、その他必要に応じて）を実施する。必要に応じて主治医や巡回指導医に助言を求める。	②③	B	B	B	・医療的ケア安全委員会において、児童生徒のケア実施時の様子や課題などについて共通理解して検討することができた。巡回指導医には、修了研修時に、困っていること等について相談し、助言をいただいた。 ・夏季休業中には看護職員を講師として校内における医療的ケアの研修会を行った。栄養注入や吸引の実施内容や注意点等についての伝達や、パルスオキシメーターの使い方などについて確認することができた。また、休校期間中には担当教員に個別のケアについての研修を実施し、手順の確認や不安な点について相談を受けた。 ・ヒヤリハットについては、保健指導部の事例と一緒に月1回掲載していただき、教員全員で共通理解を図った。看護職員については連絡ノートで報告し、再発防止に努めた。
		○校内職員に対しての医療的ケアに関する専門性の向上を図る。	○校内研修を行う。	②③	B			
			○ヒヤリハットの事例蓄積と分析をし、職員に周知する。	②③	B			
	給食指導係	○栄養と健康に関する指導を行う。	○食に関する全体指導計画を配付したり、研修会を行ったりすることで、職員の意識を高めるとともに安心・安全な給食提供を実現する。	③	B	B	B	・今年度、コロナ感染症対策として給食当番表の内容の変更、食事前後、食事中の配慮点等を確認した。来年度以降も継続して取り組んでいきたい。 ・新転入生の食物アレルギーについて、アレルギー対応委員会で共通理解を図った。今後も安全を最優先に検討し、取り組んでいく。
		○食に関する実態表を年に2回実施する。	○自立活動部とも連携し、外部専門家来校の際に活用する。職員に周知し、実行する。	③	B			
		○食物アレルギーのある児童生徒への適切な対応を行う。	○必要に応じて学校給食委員会を行い、対応について話し合う。	③	A			
			○個別支援シートや緊急時のマニュアル等を作成する。	③	B			
		○学校防災安全能力の向上に努める	○火災・地震・原発事故を想定した避難訓練及び引き渡し訓練を計画的に実施する。	①	C			・火災・地震・原発事故を想定した避難訓練を各部ごとに実施した。今後、より実際の災害を想定した訓練を意識して取り組んでいきたい。 ・職員にヘルメット及び非常持ち出し袋の常備を呼びかけた。今後も、協力を呼びかけていく。
			○緊急時に対応するための実践的な職員研修を計画的に実施する。	①				

防災安全部	防災・安全係	⑨。	○毎月、安全点検を行い、防災を意識した教室や廊下、トイレなどの学習環境と居住空間を整備する。	⑤	C	・今年度は、福祉避難所特別支援学校4校合同会議事務局校として会議を主催した。コロナ禍での避難の仕方、方法等水戸市と共通理解を図った。(次年度は、水戸飯富特別支援学校が事務局校) ・引き渡し訓練の在り方の検討を進める。 ・引き続き各種対応マニュアルの確認と見直しをしていきたい。医ケアについて確認が必要。(茨城福祉医療センターと協力。) ・次年度は、水戸市と協力して福祉避難所開設を意識した取り組みを実施する。
		○学校・保護者・地域が連携した防災体制を構築する。	○年2回の地域防災関係者や保護者を交えた、学校防災連絡会議を実施する。	①		
			○有事の際の医療的ケア児童生徒の安全な避難と茨城県こども福祉医療センターとの連携を構築する。	②		
			○有事の際の福祉避難所設置を意識した取り組みを実施する。	①		
	環境整備係	○校舎内外の美化と整備を行う。	○花苗を花壇やプランターで栽培し、計画的に校内の美化に努める。	②①	B	・くれよん工房裏の駐車場が使えなくなったので、その分グラウンド駐車する車が多くなった。分教室裏や寄宿舎脇など今のうちに駐車場を拡充する必要がある。 ・花苗を取りに行く指定日が3月3日(水)となっており、県立高校入試日と重なっていたので市民センターに連絡をして翌日にずらしてもらった。県立高校入試日であることを市も認識して欲しい。
		○駐車場を適切に運営する。	○随時行事予定を確認し、必要な駐車台数を早めに把握する。さらに、駐車場所の移動を本校職員に正確に連絡する。	①		

渉外部	総務	OPTA活動や各行事への参加率の向上をめざす。	OPTAとして魅力ある活動の取り組み等について役員会等で検討する。	⑪	B	C	・今年度、コロナ感染防止対策としてPTA総会を含め役員の引継ぎ等が実施できない状態であった。児童生徒の登校が可能な状況になってからオンライン、対面とハイブリット方式で役員会を開いてPTAとしての取り組みについて検討した。来年度以降も現在の状況をふまえて各委員会や活動の負担軽減のための改善策を話し合い来年度から一部の活動や役員会を休止する等の対応をしながら取り組んでいく。 ・学校での教育活動やPTA活動等の情報発信としてブログ等、電子媒体を積極的に活用し、広報誌発行に対する担当者の負担軽減や予算の有効活用に取り組んでいく。
		○会員の意識を高め、積極的な取り組みができるように努める。	○行事や活動等について、ブログや広報紙等を活用し、活動報告やPR等を多く配信していく。	⑪	C		
		○会員のニーズを踏まえながら各係の運営ができるように努めていく。	○スクールサポーターの協力、登録呼びかけとサポートの内容等について工夫をする。	⑪	C		
			○学年・地区PTAにかかわる職員との連携を深め、会員相互の意識の向上を図る。	⑪			
			○スムーズな各係の企画運営を目指し、部会等での話し合いを充実させ、職員間の連携体制を整える。	④⑪			
	広報係	○各学部、各学年、分掌部と連携しながら情報収集を行い、教育活動やPTA活動に関する内容の豊かな会報紙づくりに努める。	○仕事内容の説明や進め方、作業の手順等を委員長に簡潔に伝えることで、見通しをもって作業に当たることができるようにする。	⑪	D	C	・コロナ感染症予防のため、委員会の実施を控えた。来年度は広報誌の発行回数を減らし、年2回にする予定である。
			OPTA委員と連絡を取り合い、広報誌発行に向けて定期的に会議をもつようにする。	⑪	D		
			○各部や学年の活動や分掌部の活動についての情報を共有しながら、各回の広報誌の内容検討やレイアウト、原稿依頼を行う。	④	B		
	研修	○学校、保護者の連絡を密にして、保護者のニーズに応じた研修活動を推進する。	○保護者からの意見や、研修会に参加した後のアンケート結果などをもとに研修計画を策定したり検討したりしていく。	⑪	D	D	コロナ感染症の影響で施設見学の実施が難しかった。研修の機会が、10月に行われた進路関係の研修会のみだった。次年度は、実施方法を検討しながら、取り組んでいく。
		○校内外の関係者と連携して、参加者にとって将来に見通しがもてるような魅力のある研修会を企画運営する。	○自立や社会参加について考える一助となるよう、施設の紹介や、専門家の話を届けたりする機会を設ける。	⑭	D		
			○研修会は、保護者、教員を含めて参加者同士が情報交換を行い、交流の場となるよう工夫する。	④	C		
	整備	○保護者の協力を得て、連携を密に取りながら、奉仕作業を行い校内美化に努める。また、ベルマーク収集活動をとおして教育環境の整備に努める。	○奉仕作業(年2回)で、除草作業や窓ふきを行う。実施計画や使用する用具を確実に準備する。	⑪	D	D	・コロナウイルス感染症の影響で、今年度の奉仕作業、ベルマークの集計作業は中止となった。奉仕作業で使用する用具の手入れを行い、風通しの良い倉庫に移動した。ベルマークの収集は11月に実施した。今後は、活動の必要性を検討していく。
			○ベルマーク収集活動を行う。ベルマークの集計は、二学期以降(11月、3月)に実施する。整備委員の保護者、スクールサポーター、PTA役員の協力を得ながら進めていく。	⑪	D		
			○プリンターインクのリサイクルの仕分けを行う。(ベルマーク集計時に実施)	⑪	D		
			○エレベーター隣の棚にある落し物の管理をする。保管は1年間とする。	④	B		

学年係	○各学年の事業活動がスムーズに計画でき、まとまりのある学年集団となるよう努める。	○学年で実施する親子レクリエーションや研修会等の計画や調整は、学年委員と学年代表職員等と連携をしながら進めていく。	④	D	・コロナ感染症の影響で親子レクリエーションは1学年のみの開催となった。研修会の実施は難しかった。来年度は、基本的には休止であるが、希望学年は行う方向で取り組んでいく。
地区	○児童生徒及び保護者がより豊かな地域生活をおくるため、地域活動を充実させるとともに円滑に実施できるよう努める。	○保護者が知りたい情報や行いたい活動の要望を受け、地域活動が円滑に実施できるよう支援する。	⑪	C	C ・今年度は地区別ではなく、全体でのオンライン茶話会を実施した。参加者にとっては貴重な情報が得られたり、意見交換がなされたりと良い時間になった。 ・地区別での顔合わせができなかったため、次年度の役員選出が難しかった地区もあり、来
ボランティア	○学校周辺地域の施設や大学・高等学校に対して、ボランティアの魅力を伝えとともに、ボランティアスクールの活動内容を紹介する。	○関係諸機関との連携・協力を図りながら、講義や演習内容の検討をする。	⑪	C	C ・コロナ禍の状況の中で実施できる活動に取り組んだ。オンラインでのボランティアスクールを開催した。20名程度の高校生が参加し、オンラインによる開催の可能性も見出すことができた。 ・ホームページは学校全体の更新時に合わせて実施する。
		○ホームページのブログなどを活用して、ボランティアに対する意識向上を図り、ボランティアスクールのPRを行う。	⑪	D	
		○ボランティアスクールの活動実践を掲示し、活動に対する本校の児童生徒の啓発と理解の向上に努める。	⑪	C	

	ア係	○学校・保護者・関係機関と連携し、次年度以降を見据えた継続的な活動の実施ができるようにする。	○OPTA役員と協力体制を図ることで、保護者の意見を反映した活動を検討する。	⑰	C		
			○関係機関との連携・協力を図り、継続した活動の運営を推進する。	⑰	C		
小学部	全体	○児童一人一人のニーズを十分に把握し、個に応じた学習の充実を図る。	○児童理解に努め、児童一人一人にとって安全安心な学習環境であるか常に確認する。	⑤⑧	B	B	・新型コロナウイルス感染症への対策をしながら、児童にとって安全な学習環境を整えるため、学年での学習を行った。タブレット端末を用いた活動の展開や使用の工夫で児童の自己表現の選択肢も広がった。今後も児童の実態の変化に合わせた環境と支援方法の情報共有を更新していく必要がある。 ・校外での活動を中止した行事もあったが、校内で代替の活動を設定することで体験的な学習を確保することができた。児童一人一人に合った場の設定や教材・教具の工夫を行い、個に応じた学習の充実を図ることができた。 ・保護者、関係機関と支援や指導について連携を図り、将来の社会生活を意識した支援をすることができた。
			○児童一人一人が伸び伸びと自分を表現できるような場の設定や教材・教具の工夫を行うとともに、継続的な授業改善に努める。	⑨⑩⑪			
		○将来の社会生活に向けて、自立と社会参加を意識した支援の充実を図る。	○学校生活全般において将来の社会生活を意識してかわり、児童一人一人のQOLの向上を図る。	⑨⑭	B		
			○保護者、関係機関との連携を大切にし、個別の教育支援計画を有効に活用する。	⑮⑯			
	準ずる	○学習の基礎基本が身につくよう、個々の特性に合った学習方法を工夫し、教科学習の充実を図る。	○個に応じた支援を大切にしながら、学習に主体的に取り組めるような環境を整備し、支援する。	⑤⑧	B	B	個々の実態に応じて学習指導や支援を行うことができた。また、休業中や個々の状況に応じてオンライン授業やICTを活用した授業を実施して、学習保障に努めることができた。今後も、ICTのさらなる活用や教科担当制の実施などにより、よりよい授業につなげていきたいと思う。
			○児童自身が進んで学習に取り組み、学ぶ喜びを味わえるよう、学び合いの場を積極的に設ける。	⑨⑩⑪			
	重複	○日常生活に必要な知識・技能が習得できるよう、体験的な学習の充実を図る。	○児童一人一人のニーズを十分に把握し、個々の実態に応じた日常生活に必要なスキル積み上げることができるよう支援する。	⑨	B	B	・個々の実態に応じた体験的な学習を多く取り入れ、日常生活に必要な知識・技能を向上させることができた。 ・コロナウィルス感染症予防のため、ICTの活用、学年を限定しての合同授業など、集団での役割を設定できるよう工夫することができた。
			○集団の中で自分の役割を果たすことができるよう場を設け、常に将来の社会参加を意識して支援する。	⑭			
	重度・重複	○健康の保持増進を図りながら、人とかわる喜びが味わえるような支援の充実を図る。	○児童一人一人の実態に応じ、心身共に良好な状態が保てるよう、望ましい生活習慣を構築する。	②	B	B	・各学年で授業内容を工夫して、実態に応じた学習や支援を行うことができた。 ・休業中のオンライン学習は、普段の授業と異なり児童に直接関わることができない難しさがあった。保護者の協力により、授業内容を充実させることができ、児童が意欲的に取り組む様子が見られた。
			○個々の児童がもつ表現方法を十分に引き出せるよう、場の設定や教材・教具を工夫する。	⑨			
		○一人一人のニーズに応じた授業づく	○学習指導要領に基づいた年間指導計画の精選と、教材・教具、板書等の工夫に努め、確かな学力の基盤の育成を図る。	④⑥⑦⑧⑨	B	A	教材・教具や提示等の工夫を行い、学習に臨むことができた。将来の自立と社会参加を目指す

全体	りをとおして字力の向上を図る。	○将来の自立と社会参加を目指し、具体的な体験をとおして自己や他者の理解を深め、身近な人々と協力して取り組む姿勢を育む。	①⑪ ⑬	B	B	し、字音で字んたことを生かして活動を行つことができた。学習指導要領を参考にしながら、基礎的な学力を育成し、より豊かな体験活動へとつなげていけるとよい。
	○安心・安全な学校生活の充実と生活の基盤となる地域社会の正しい知識と理解を深める。	○保護者、関係機関との連携を密にし、個別の教育支援計画の策定及び適切な活用を図る。	⑦⑫ ⑮			保護者や関係機関と連携しながら生徒の支援を行うことができた。居住地校交流や地域間・学校間交流については、コロナウィルス感染症予防のため難しかった。文化祭の中で他校の動画を見ることができた。
		○居住地校交流や学校間交流に積極的に取り組み、地域参加への支援を図る。	⑯⑰			
準ずる	○基礎学力の定着を図り、自主的、協働的に学ぶ態度を育成する。	○一人一人の実態を的確に把握し、個に応じた教材・教具の工夫に努める。	④⑥ ⑧⑨	B	A	個々の実態に応じて学習指導にあたることができた。自分の将来に関することを考えることができた。寄宿舎利用や職業に関わる体験的な活動などにつなげていけると良いと考える。
		○自己の進路を見据えたキャリア教育の推進と充実を図り、体験的活動に積極的に取り組む。	⑪⑬			
重複	○社会生活力を養うための体験的な活動を行い、自己や他者を理解するとともに知識や経験の拡大を図る。	○自分の役割を理解して、互いの良さを認め合いながら仲間と協力して作業等の様々な活動に取り組む態度と基礎的な技能を養う。	⑪⑬	B	B	友達と協力しながら作業等に取り組むことができた。個に応じた課題別の学習では、身近な内容を体験的な活動として取り入れ、学んでいけると理解が深まり、次の体験へと生かすことができると考える。
		○一人一人のニーズや実態に応じたグループで課題別の学習を行うことで、意欲的に取り組むことができるようにする。	④⑥ ⑧⑨			

高等部	重度重複	○自発的な動きや意志の表出を引き出しながら、伝える力の拡充や身体機能の維持・向上を図る。	○自分の身体に対する意識を高め、身体機能の維持や体力の向上を図る。	②⑥⑩	B	B	身体機能の維持や体力向上を考え日々の学習に取り入れることができた。また、友達や教師とやり取りをする中で伝える力を少しずつ獲得することができた。ICT機器や具体物等を活用しながら自分から意思表示ができるとよいと考える。
		○人との関わりの中で自発的な動きや意志の表出を引き出しながら、伝える力の獲得及び拡充に努める。		⑧⑨⑩⑪			
	全体	○将来の自立と社会参加を目指し、キャリア教育の推進を図る。	○保護者、関係機関との連携を深め、個別の教育支援計画及び個別の指導計画、個別の移行支援計画の作成と効果的な活用を図る。	⑪⑫	B	B	保護者や関係機関との連携をとり、学習や進路について個別の教育支援計画を活用し、共通理解を図り、臨時休業中でもその状況でできる内容に変更しながら、保護者の協力の元学習を進めることができた。自立と社会参加に向け、進路についての学習内容や方法を学習指導要領を基にして整理していく。
			○自立と社会参加に向けた指導内容の整理と生徒のニーズに応じた教育活動の充実を図る。	⑪⑬			
		○生徒の興味関心を高め、主体的・意欲的に取り組める教育活動の充実に努める。	○主体的・意欲的に取り組める環境整備に努め、体験的な学習の充実を図る。	⑬⑱⑲⑳㉑	B	B	生徒自身が考えて学習に取り組む生徒の実態に応じた方法や使用の仕方をICT機器を活用したりすることのできる学習内容を計画し、実践できた。生徒の実態や将来の生活を考え、体験的な学習をさらに多く取り入れた学習の計画を立てていけるようにしていく。コロナウイルス感染症の対策をとりながら、個々の実態に応じた学習形態や指導内容、方法を考えて支援を行うことができた。
			○個に応じた学習形態、指導内容及び指導方法の工夫・充実に努める。	⑪			
	準ずる	○自ら学び自ら考える力を高めるとともに基礎的・基本的な学習内容の理解と学力の定着を図る。	○将来の自己実現に向けた基礎学力及び実際の社会生活に適應するために必要な力を養えるよう指導の充実を図る。	⑪	B	B	・基礎学力定着のため、計画的に授業を行い、指導方法の改善を図り、わかりやすい授業の構築に努めることができた。今後も継続して授業のレベルアップを図っていききたい。 ・現場実習、校内作業を実施することにより、生徒の進路に必要なスキルの向上を図ることができた。
			○自己理解を深め、主体的に進路選択できるように現場実習など進路学習の充実に努める。	⑬			
	重複	○体験的な学習をととして社会参加するための必要な知識・技能及び態度を養う。	○家庭科や生活単元学習など日常生活に役立てられる体験を充実させ、社会参加に必要な力を養えるよう指導の充実を図る。	⑪	B	B	・コロナウイルス感染症予防しながら、家庭科等は少人数に分かれ縦割り学習を設定した。ICTの活用、少人数に分かれるなど臨機応変に学習環境を整える等の工夫をして指導の充実を図った。 ・進路を見据え、個々のニーズに応じた内容を学習し必要な知識・技能を向上させることができた。
			○個別のニーズに応じた作業学習や現場実習を充実させ、卒業後の生活に必要な知識・技能及び態度を養得るようにする。	⑬			
	重度重複	○身体機能の維持・改善を図り、個々のニーズに応じた自発的な動きや自分の意思を表出しようとする意欲を高める。	○友達や教師を意識できるような場の設定し、見通しをもち安心して取り組めるような支援の充実に努める。	⑪⑬	B	B	・コロナ感染拡大防止のため、例年通りの学習形態が難しかったが、個に応じた支援を充実できるよう学習内容や学習形態について相談しながら、生徒が安心して過ごせるような環境づくりを行った。 ・学年ごとの授業実施であったが、協力して教材を制作したり、教材を共有し改善したりしながら、担当者間で意見を出し合って進めることができた。
			○生徒の興味関心の幅を広げ、自発的な動きや自分の意思を引き出せるような教材・教具の開発・工夫に努める。	⑪			

舎務部	○自立に向けた基本的生活習慣の確立を図る。	○生徒の実態を把握し、課題を明らかにするとともに、個々に応じた支援に努める。 ○生活全体をととして、生徒自らが「自己選択・自己決定」できる環境を整備する。	⑪	B	B	・自治会を中心に、おやつの献立、寄宿舎だよりの作成を行った。オンラインを使って女子棟と男子棟で相談したりしながら、積極的に取り組むことができた。どの舎生に対しても自分から積極的に取り組めるような環境や活動内容を用意する必要がある。 ・卒業後の自立に向けて高3によるセレクト生活体験を行った。自分で日課を考えたり、買い物したり自主的に取り組むことができた。次年度も継続して行なう中で、卒業後の生活に活かせるようにしていきたい。
	○自ら健康の増進・保持、安全の確保ができる力を育てる。	○避難訓練や夜間想定模擬避難訓練を計画的に行うなかで、避難の仕方や自分でできることを考えながら行動できるように努める。 ○日々の生活の中で、健康チェックや衛生面での知識が身につけられるよう個々に応じた支援に努める。	①③⑩	B		
	○寄宿舎での行事や自治活動を通じて、自主的主体的に行動する力を育てる。	○各係で話し合いを行う際に、舎生の意見を引き出すことに努め、自己の役割を果たし、お互いのよさを生かして活動を行えるようにする。	⑪	A		
	○寄宿舎利用への理解・啓発を推進するとともに、地域、保護者、関係機関とのネットワーク作りに努める。	○寄宿舎見学会や寄宿舎PRビデオの活用をととして、教育実践を公開し、理解・啓発を図る。 ○ボランティア活動や交流活動等の取り組みをととして地域との連携に努める。	⑫⑬	B		
事務部	○適正な歳入歳出予算執行を行う。	○法令、規則等に従い適正かつ正確に事務手続きを実施する。また、法改正や新しい制度等に適切に対処できるよう、職員間の理解啓発に日々努める。	⑤	B	C	今年度は新型コロナウイルスが予算執行や施設設備の整備状況に様々な影響を及ぼし、例年とは異なる対応が求められたが、個々の対応が後手になり円滑に業務を進めることができなかった。また、GIGAスクール構想のもと、ICT機器の導入や校内のWi-Fi環境整備などを実施したが、教育委員会からの指示による業務を行うことだけで手いっぱいになり、発展性を検討する余裕はなく先を見据えた業務執行とは言えなかった。今後も新型コロナウイルス対策やGIGAスクール関連事業が継続していくことを考えると、現在の業務が次の業務にどのように繋がっていくのかを検討することで、効率よく的確に業務を行っていく必要がある。そのためには、教育委員会からの少ない情報を基にそれぞれ業務の方向性、発展性を見定めて進めていきたい。
		○より少ない費用で最大限の成果を得ることが出来るよう、日頃から様々な情報収集を心がけることで、多角的に対応できる知識、技能を身に付け実践する。	⑤	C		
		○予算を有効活用する上で、節約は優位性を高めることが出来るため、教職員に対し経費節減の協力を求めている。	⑤	C		
	○安全で安心な学校施設設備の維持管理に努める。	○現場主義を念頭に、施設設備の巡視を行い修理箇所の早期発見、的確な対応、事故防止に努めるとともに、施設設備に関する諸帳簿・図面等を整理し、維持管理に必要な書類を素早く利用することにより、修理・修繕を的確に行い、学校運営への影響を最小限にする。	⑤	B		